

岩手県の土地改良



令和元年度「農村景観」写真コンクール
風景の部 「初冬の三郎堤」

No **590** 2022.12



CONTENTS

- ・令和5年度農業農村整備関係予算の概算が決定……………2
- ・令和4年度第2次補正予算が成立……………2
- ・岩手県12月補正予算で土地改良区への電気料金補助が成立……………2
- ・第44回全国土地改良大会沖縄大会が開催……………3
- ・『農業農村整備の集い』が開催……………4
- ・土地改良団体における男女共同参画推進研修会を開催……………5
- ・財務省、農林水産省へ農業農村整備の着実な推進を要請……………6
- ・藤代農林水産部長へ農業水利施設の適切な維持管理を要請……………7
- ・東北・北海道土地連絡協議会が財務省、農水省、復興庁へ要請……………7
- ・小野寺道雄氏が農政功労者表彰を受賞……………8
- ・水土里ネットいわての概要 2022のご案内……………8
- ・「いわて水土里ネット女性の会」初の研修会を開催……………9
- ・全国水土里ネット女性の会研修会が開催……………9
- ・「いわて水土里ネット女性の会」先進地宮崎県にて研修……………10
- ・政策提案型調査研究コンテスト Wild Cup で優勝！……………11
- ・令和5年10月よりインボイス制度が始まります……………12
- ・土地改良区だより第4回水土里ネット山田……………13
- ・編集後記

令和5年度農業農村整備関係予算の概算が決定

－当初予算は、対前年度比100.1%－

農業農村整備事業関係予算の令和5年度当初予算は4,457億円となった。

また、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策及びTPP対策、食料安全保障対策として、令和4年度補正予算において1,677億円を計上し、これらの総額は6,134億円となった。

	令和4年度 当初予算	令和5年度 当初予算 A	令和4年度 補正予算 B	合計 A+B
農業農村整備事業(公共)	3,321	3,323 <100.1%>	1,677	5,000
農業農村整備関連事業(非公共) 農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 畑作等促進整備事業、農山漁村振興交付金	540	543 <100.6%>	-	543
農山漁村地域整備交付金(公共) (農業農村整備分)	591	591 <100.0%>	-	591
計	4,453	4,457 <100.1%>	1,677	6,134

注1：計数は四捨五入しているため、端数において合計と一致しないものがある

令和4年度第2次補正予算が成立

－土地改良予算1,677億円のほか、電気料金高騰対策費も盛り込まれる－

12月に国の第2次補正予算が成立し、土地改良予算については、1,677億円（食料安全保障の強化に向けた構造転換対策：100億円、「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施：760億円、防災・減災、国土強靱化と災害復旧等の推進：817億円）が措置された。また、今回の補正予算には、新型コロナウイルス感染

症対応地方創生臨時交付金：7,500億円も盛り込まれており、本年9月に同交付金の増額・強化のために創設された「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」により、土地改良区における農業水利施設の電気料金高騰に対する支援が可能となる。

岩手県12月補正予算で土地改良区への電気料金補助が成立

－電気料金高騰による施設維持管理費の負担を軽減－

新型コロナウイルス感染症や円安等の影響で電気料金や燃料費等が急激に高騰し、農業水利施設を維持管理している土地改良区に大きな負担となっている。

今般、岩手県の12月補正予算で「農業水利施設管理電力価格高騰緊急対策費補助（県単）」が成立した。予算は65,000千円で、補助の対象は令和4年4月から12月までの電気料金、補助額は燃料費調整単価の

令和3年度に対する増高分に令和4年度電力使用量に乗じた経費の2分の1以内の額（ただし、基幹水利施設管理事業及び水利施設管理強化事業の対象施設は、経費の補助残の2分の1以内の額）となる。

本会は、10月に岩手県に対して、土地改良区の揚水機等農業水利施設の維持管理に係る電気料金への支援を要請していた。

第44回全国土地改良大会沖縄大会が開催 — 及川哲朗氏が農林水産大臣表彰を受賞 —

11月22日、第44回全国土地改良大会沖縄大会が開催され、全国の水土里ネット関係者約2,500人が参加した。

開催にあたり、主催者の二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長が、「土地改良という集団をなくすわけにはいかないということを、全国各方面に認識していただくことが、予算の獲得やその後の農業農村振興策の展開に大きくつながる。令和5年度の予算編成は大詰めを迎えており、本年度補正予算においても土地改良の電気代高騰分の7割を支援する仕組みを導入した。引き続き、皆様方のさらなるご尽力、ご協力をお願いします。」と挨拶した。



【挨拶する二階会長】

また、来賓の勝俣農林水産副大臣が、「我が国の農林水産業が大きな転換期を迎える中、食料を安定的に供給していくため土地改良の重要性はますます高まっている。農林水産省として、制度面では土地改良法を改正し、予算については、令和4年度は当初予算と前年度補正予算を合わせて6,285億円を確保し、皆様の期待にお応えできる規模となっている。また来年度に向けてもしっかりと予算を要求している。」と祝辞を述べた。

式典では、長年にわたり土地改良事業にご尽力された方々の功績を讃えて表彰式が行われ、本県からは及川哲朗氏（岩手中部土地改良区理事長）が農林水産大臣表彰を、井上良一氏（岩手山麓土地改良区理事長）が農林水産省農村振興局長表彰を、故加藤良助氏（元金流川沿岸涌津土地改良区理事長）が全土連会長表彰を受賞した。



【農林水産大臣表彰を受賞した及川氏】

大会翌日の23日には、『慶座（ぎーざ）地下ダム』を視察した。慶座地下ダムは沖縄本島の南郊に位置する糸満市及び八重瀬町において、米須（こめす）地下ダムと共に1,352haの畑地を潤しており、安定的な農業用水の確保による野菜、果樹、花卉、サトウキビなどの多様な農業の展開、生産性及び品質の向上、労力節減による農業経営の安定に寄与している。



【本島南部土地改良区の説明を聞く様子】

農業農村整備事業の一層の充実と推進に向けて

— 『農業農村整備の集い』が開催 —

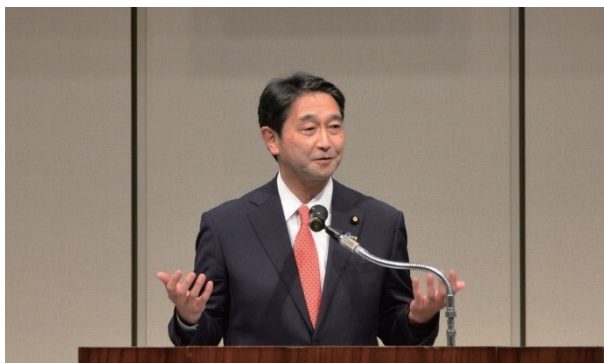
10月20日、全国土地改良事業団体連合会は、令和5年度当初予算の確保と各種施策の着実な実施に向けて『農業農村整備の集い』を開催し、257名の国会議員ご臨席のもと、全国から1110名が集結した。

開会に当たり二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長は、「来年度予算編成に向けた折衝が続けられているが、皆さんの期待に沿えるよう、十分な予算確保に向け一致団結していく必要がある。また、男女共同参画の取組みについて、目標達成に向け今年から集中的に取り組んでいただくようお願いを申し上げます。」と挨拶した。



【挨拶する二階全土連会長】

次に、祝辞では、進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問が、「補正予算、当初予算並行して編成会議が続いていくが、皆様の思いがしっかりと形になって現れるよう、電力料金補填対策や当初予算の確保等様々な面で努力してい



【祝辞を述べる進藤会長会議顧問】

く。」と述べた。

続いて、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践した、萩原丈巳全国水土里ネット女性の会会長に二階会長から感謝状が贈呈された。



【事例発表する及川理事長】

次に、『令和4年度補正予算及び令和5年度当初予算において、必要な予算を安定的に確保すること』など全10項目の要請案文が全会一致で採択された。

続く事例発表では、及川正和胆沢平野土地改良区理事長が「女性理事の登用について」と題して、女性理事登用を総代会で議決されるまでの経緯について実例を交えながら説明した。

最後に、宮崎雅夫都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問が、電力料金高騰対策・水田活用の直接支払い交付金の見直し・防災減災国土強靱化についての情勢報告をした。



【ガンバロウ三唱をする代表者】

土地改良団体における男女共同参画推進研修会を開催 —2025年度 成果目標達成に向けて—

10月28日、本会3階会議室において、岩手県、全土連、本会の主催、いわて水土里ネット女性の会の共催により「土地改良団体における男女共同参画推進研修会」が開催され、土地改良区理事長、事務局長等が会場とWeb、併せて33名が参加した。

開会にあたり、大宮惇幸本会会長が「女性理事の割合を2025年度までに10%以上とする目標が設定された。農業を取り巻く環境が刻々と変化するなか、女性理事登用を進め、土地改良区運営に新たな視点で取り組むことが必要である。」と挨拶した。

令和4年度 土地改良団体における 男女共同参画推進研修会



【主催者挨拶する大宮会長】

続いて、菅原みゆきいわて水土里ネット女性の会会長が「男女共同参画推進については、具体的な数値目標も掲げられ、今後の土地改良区組織運営の体制強化を図る観点からも重要とされている。研修会の趣旨をご理解いただき、今後、女性理事登用の推進を進めていただきたい。」と挨拶した。

研修では、三木秀一全国水土里ネット土地改良研究所長が、『土地改良における男女共同参画の意義、基本事項』と題し、男女共同参画を進めなければならない理由や今後どのように進めていくかについて述べた他、土地改良区における男女共同参画の手引きを用いて、その内容や行動計画作成について説明した。



【共催者挨拶する菅原会長】

続いて、『女性理事の登用について』と題し、及川正和胆沢平野土地改良区理事長から、土地改良区における女性理事登用への経緯について披露された。役員、総代等に女性理事の必要性を丁寧に説明し、理解を得たこと。また、女性理事の登用にはトップの強力なリーダーシップがいかに重要であるかを実例を交えながら説明した。



【講演する及川理事長】

最後に、村上豊東北農政局土地改良管理課長が、『土地改良団体における男女共同参画』と題し、土地改良区における女性参画の状況及び事例と推進に向けての取り組みや、女性理事登用にかかる定款・規定の変更について説明した。

参加者は、研修や講師への質問を通して、男女共同参画について理解を深めるとともに、目標達成に向けた今後の具体的な取り組みへつながる有意義な研修会となった。

財務省、農林水産省へ農業農村整備の着実な推進を要請

— 安定的・計画的な事業実施や防災・減災に向け来年度予算の確保を —

9月15日、本会の大宮惇幸会長、小野寺道雄副会長が、財務省のほか農林水産省に対し、令和5年度当初予算及び令和4年度補正予算の確保、電気料金高騰対策等土地改良区の運営基盤強化並びに早期災害復旧などの「農業農村整備の着実な推進に関する要請」を行った。

財務省では、鈴木俊一財務大臣に面会し、要請を行った。鈴木大臣からは、「基盤整備の大切さは承知している。整備後は労働時間が短くなり生産性が上がり、収入が増えることで地域全体が変わってくる。また、今後、人手不足を補うにはスマート農業を展開する必要があり、それには大区画ほ場整備を進める必要がある。着実に進めてほしい。」とのコメントをいただいた。



【鈴木財務大臣への要請】

〔左から:千葉専務理事、大宮会長、鈴木財務大臣、小野寺副会長〕

農林水産省では、勝俣孝明農林水産副大臣を始め、青山農村振興局長及び青山整備部長にそれぞれ面会し、要請を行った。

勝俣副大臣からは、「要望いただいた内容は、いずれもやっていかなければならないもの。農水省としてはありがたい要請で

ある。特に、農業農村整備事業の予算については、しっかりと確保していきたいと思っている。また、岩手県は、スマート農業や省エネ対策にもいち早く取り組まれているとのこと。引き続き取組の拡大をお願いしたい。」とのコメントをいただいた。



【勝俣農林水産副大臣への要請】

〔左から:千葉専務理事、小野寺副会長、勝俣農林水産副大臣、大宮会長〕

青山農村振興局長からは、「(コロナ臨時交付金としての)土地改良区の電気料金に関する予算と同様に、来年度の農業農村整備事業に必要な予算についてもしっかりと確保していきたい。」とのお話があった。

また、青山整備部長からは、「土地改良区におけるスマート農業の成功事例など、今後ともいい成果をPRしていただきたい。土地改良区の電気料金に対する支援交付金については、皆様からの声が届いたお陰。予算確保に関しては、現場からの声が届くことが一番効果的。引き続き、来年度に向け必要規模の予算を確保できるよう頑張っていくので、お力をいただきたい。」とのお話があった。

藤代農林水産部長へ農業水利施設の適切な維持管理を要請

－電気料金高騰の影響を受けた土地改良区に対する支援について－

本会は10月18日、大宮惇幸会長と及川哲朗副会長が、岩手県農林水産部藤代克彦部長、千葉和彦技監兼農村整備担当技監兼農村計画課総括課長、佐々木剛技術参事兼農村建設課総括課長に対し、「農業水利施設の適切な維持管理に関する要請」を行い、藤代部長から次のとおりコメントを頂いた。



〔左から：及川副会長、藤代部長、大宮会長、千葉専務〕

○藤代農林水産部長のコメント

・県でも、9月に国に対して、農業水利施設の維持管理の中で電気代が負担になっている状況への支援策を講ずるよう要望したところ。

・国のコロナ臨時交付金に、農業水利施設の電気料金高騰など農林水産業における物価高騰を重点的に支援するメニューが創設されたところだが、県としても、この交付金の活用を見据えながら、農業経営が安定するよう支援を検討しているところ。

・11月以降の電気料金値上げは決定していることであり、来年度の負担が心配であるが、国際情勢や為替が影響するため、これについては国にしっかり対応してもらうべきと考える。

・今後の国の動きを見据えながら、引き続き、国に対して、電気料金の支援策を講ずるよう働き掛けていく。

東北・北海道土地連絡協議会が財務省、農水省、復興庁へ要請

－農業農村整備予算の確保を要請－

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会は、10月21日に財務省、農林水産省、復興庁に対し、令和5年度当初予算及び令和4年度補正予算の確保等について要請を行った。

財務省では、鈴木俊一財務大臣に面会・要請し「来年度の予算は非常に厳しい状況。メリハリをつけて予算編成していく。基盤整備をしっかりと進めていくことは重要と認識している。要請があったこと等を踏まえて予算の検討を行っていききたい。」とコメント頂いた。

農林水産省では、勝俣孝明農林水産副大臣に面会・要請し「今まさに概算要求の時期。地域からの要望に応じていくた

め、しっかりと予算を確保できるよう頑張っていきたい。」とコメント頂いた。

復興庁では、小島敏文復興副大臣に面会・要請し「農地及び農業用施設の復旧工事について、岩手県と宮城県は概ね終わることができた。一方、福島県は復旧工事を進めているところ。引き続き必要な予算を確保ができるよう取り組んでいきたい。」とコメント頂いた。

なお、20日～21日には、全国土地改良事業団体連合会により農水省・財務省に対し、農業農村整備予算の確保等の要請も行われた。21日の鈴木財務大臣との面会・要請には、大臣との連絡担当県として岩手土地連も同席した。

小野寺道雄氏が農政功労者表彰を受賞

—令和4年度農業委員会大会において—

11月9日、都南文化会館（キャラホール）において、一般社団法人岩手県農業会議（杉原永康会長）主催の『令和4年度岩手県農業委員会大会』が開催され、小野寺道雄照井土地改良区理事長が農政功労者表彰を受賞した。

この表彰は、永年にわたり農林業関係機関・団体の役員等として、地域農業・農村の振興に多大な貢献をされた方を表彰するもので、小野寺氏の受賞は、土地改良区の経営基盤の安定化等の功績が認められ、榮譽に浴された。

会場では、県内各地から参集した農業委員や関係者約400名が受賞者へ盛大な拍手を送っていた。



【受賞式の様子】

（一番左が小野寺理事長）

○小野寺氏受賞理由

理事長就任時に「土地改良区の経営基盤の安定化」、「中山間地域の基盤整備の推進」、「小水力発電の普及啓発等」、「世界かんがい施設遺産『照井堰用水』の活用」、「土地改良施設の適切な維持管理」、「組織・事務局体制の課題の整理」、「スマート農業の推進」の7つの運営方針を掲げ、それぞれの取組を先導している。

不整形な区画や狭小な道路など耕作条件が厳しい中山間地域への基盤整備事業導入を推進し、滝沢、笹谷、西黒沢、下大桑、厳美滝原ひがし、川台の6地区が事業採択された。その後も換地業務・調査調整業務・補助監督員業務を受託し、各地区推進委員会と連携しながら農地利用集積や営農計画の実践に向け、営農組合や法人の設立に積極的に取り組んでいる。さらに農村地域防災減災事業北照井堰地区では、照井堰・厳美北堰・平泉北堰・日向堰・西風堰の総延長9,037mの水路改修が展開されており、農業用水の安定供給や防災対策に万全を期するよう事業の推進に尽力している。

水土里ネットいわての概要2022のご案内

水土里ネットいわてでは、本会の業務内容・組織について綴った「水土里ネットいわての概要」を作成しています。

今年度の「水土里ネットいわての概要2022」が、本会ホームページに記載されております。業務の参考にご覧ください。

（本会ホームページ）

<https://www.iwatochi.com/>



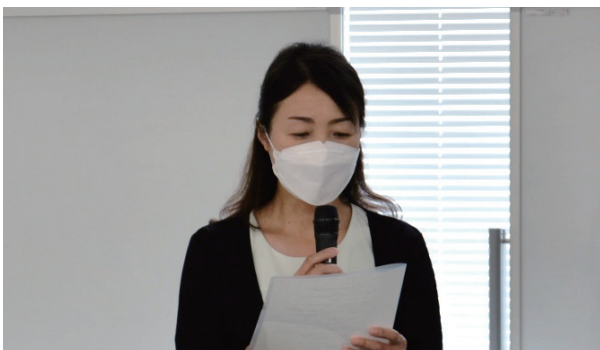
水土里ネットいわての概要 2022 表紙

「いわて水土里ネット女性の会」初の研修会を開催

7月22日（金）、ビックルーフ滝沢において、「いわて水土里ネット女性の会」研修会を開催し、会員24名が参加した。

女性の会設立以降初となる今回の研修会は、会員同士の交流と男女共同参画について理解を深める目的のもと行われた。

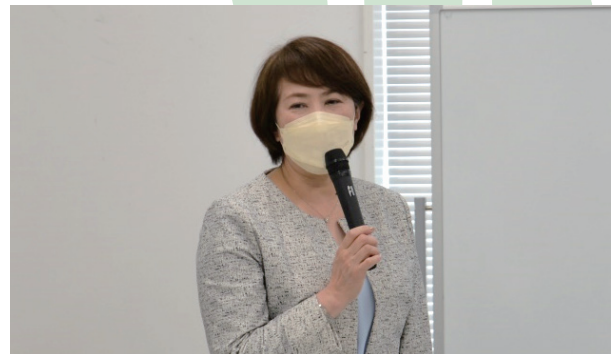
開会にあたり、菅原みゆき会長が「女性の会の設立から10か月が経ち本研修会が皆様と顔を合わせる初の行事となる。研修では男女共同参画について講演をいただくが、土地改良区も2025年度の数値目標達成に向けて取組を進めていく必要がある。取組を進める上で、それぞれの改良区が抱える悩みや意見、情報等を交換できる機会になればと思う。」と挨拶した。



【挨拶する菅原会長】

研修では、Next-Stage（ネクステージ）代表大高智佳子氏を講師に招き『男女共同参画～これからの私たちのあり方を考える～』と題し、男女共同参画における法律

や岩手県での取組、これからの女性の働き方等について講演いただいた。



【講演をする大高智佳子さん】

講演後には、参加者が一人ずつ現在の仕事内容や趣味について自己紹介を行った。

参加者からは、講演を通して男女共同参画について理解を深め、また女性のこれからの働き方について考えるきっかけとなる有意義な研修になったとの声が多く寄せられた。



【受講の様子】

全国水土里ネット女性の会研修会が開催

10月21日（金）、全国水土里ネット女性の会は、東京都千代田区 砂防会館別館において、「全国水土里ネット女性の会研修会」を開催し、いわて水土里ネット女性の会の菅原みゆき会長と事務局、草野一人課長補佐が出席した。

研修では、参加者同士でグループワークが行われ、男女共同参画の意識醸成に関する課題や課題解決に向けた具体策等について意見交換した。



【研修会の様子】

「いわて水土里ネット女性の会」先進地宮崎県にて研修

いわて水土里ネット女性の会、高橋優恵副会長(胆沢平野土地改良区)、高橋帆南美幹事(山王海土地改良区)、事務局、本会菅野章参与の3名が12月5、6日の2日間、宮崎県に出向き男女共同参画について先進地研修を行った。

研修先の水土里ネットみやざきでは、平成29年に発足した「日本のひなた水土里ネット女子会」の立ち上げの経緯や活動状況を聴き取るとともに、「いわて水土里ネット女性の会」の活動状況等を紹介し、コロナ禍における活動方法などを意見交換した。



【水土里ネットみやざき職員との意見交換】

また、大島堰土地改良区では、全国初の女性理事長に就任した奥村千扶子理事長を訪ね、理事長になるまでの経緯やその意気込みを学んだ。奥村理事長から「2haの水田の後継者が私しかいなく組合員となった。総代となって1期目の任期を終えようとした時、理事にとの声が上がったが、周りの賛同を得られなかった。2期目の任期を終えるとき、再び、理事に押され、周囲と議論を重ねた末に理事になった。その後、副理事長を8年務め、令和2年に理事長となった。職務に当たっては、「男だから」「女だから」ではなく「理事として」を常に念頭に置いている。性差に拘らず“みんなと一緒にやる”ことが大事。」などと理事

長になるまでの経緯や心構えなどを教えていただいた。このほか男女共同参画はもちろんのこと、土地改良区運営やほ場整備事業計画の地元取りまとめ、農業生産の法人化に伴う高収益作物の導入など多岐にわたり意見交換を行い、共に男女共同参画を進めていくことを確認し研修を終えた。



【熱心に語る奥村理事長】

《研修を終えて》

○高橋優恵副会長

胆沢平野土地改良区では来年2月に女性理事が誕生するため、実際に理事として長年務められた奥村理事長の経験談は大変勉強になった。また、場所は違えども共通の課題や問題を抱えており、親近感を覚えた。研修全体を通じて、今後女性の会として内外問わず交流の輪を広げたり深めたりすることで、それぞれの土地改良区が抱える問題解決の糸口が見える可能性が多分にあると感じた。

○高橋帆南美幹事

「日本のひなた水土里ネット女子会」は会員同士の交流や、他県との意見交換、要請活動への参加など、積極的に活動しており大変参考になった。大島堰土地改良区の奥村理事長は、行動力と活力があり、他者にも自分にも常にジェンダーレスの意識を持っている素晴らしい方。今回の研修を通して、本会の役割について改めて考えさせられた。

政策提案型調査研究コンテストWild Cupで優勝！

8月9日（火）・10日（水）、県農林水産部が主催する政策提案型調査研究コンテスト「Wild Cup 2022」が開催され、本会の「純ちゃんズでミドローン」チームが提案発表した「ドローンと水土里情報システムの融合による農業農村のデジタルツイン（えーのう）の構築」が、45プレゼン中、栄えある優勝に輝いた。



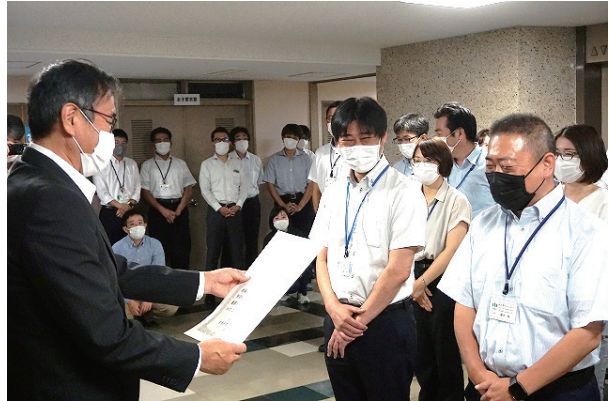
【発表の様子】

このコンテスト「Wild Cup」は、県農林水産部が、部職員等を対象に、従来にない野心的（＝新しく大胆）政策立案に向けた調査・研究を通じ、農林水産業の活性化等を図る目的で平成28年度から開催しているもので、今年度から新たに「関係団体部門」が設けられたことから、本会も職員6名でチームを結成し出場した。

水管理や生育管理の遠隔化とともに、都市空間では一般的になりつつあるデジタルツインを農村空間でも構築し、一步先行くスマート農業の実現ができれば面白いのでは、というアイデアを基に、営農の省力化・効率化などの課題を解決しつつ、若者など新規就農者にも受け入れやすい農業を目指すことを提案した。

実際にある地域を3D空間で再現したデジタルツインのサンプルを作成し、活用方法を動画で説明したほか、現実空間におけるスマート農業の展開に向けて、農機の

自動走行に適したほ場整備の設計や、農機の精密な走行に必要なGNSS基地局整備も提案した。



【藤代部長から賞状授与されるチーム代表】

8月31日（水）に、県庁で表彰式が行われ、藤代農林水産部長から賞状と優勝カップが授与された後、部長室にて記念撮影が行われた。

県ではこの提案を施策に反映していくことを検討するものと伺っており、本会としてもその実現に向け引き続き尽力していく。



【表彰式記念撮影】

（前列左から：佐藤副部長、山澤、藤井、藤代部長
後列左から：小野寺、石岡、菊池、菅野、大村
（チーム員：菊池、藤井、石岡、大村、山澤、山田）

※プレゼン資料は当会ホームページの以下リンク先へ。

<https://www.iwatochi.com/main/06/osirase/osirase1037%20siryou.pdf>

令和5年10月よりインボイス制度が始まります

－令和5年3月31日までに登録申請を！－

令和5年10月1日から、複数税率に対応した消費税の仕入税額控除の方式としてインボイス制度（適格請求書等保存方式）が開始されます。インボイス制度の下では、税務署長に申請して登録を受けた課税事業者である「インボイス発行事業者」（適格請求書発行事業者）が交付する「インボイス」（適格請求書）等の保存が仕入税額控除の要件となります。

【インボイスとは】

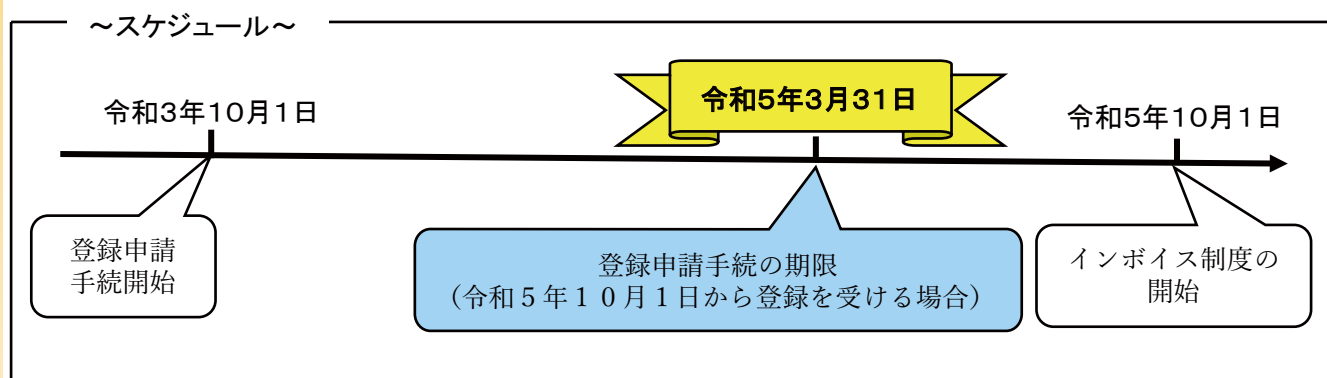
インボイスとは、「売手が買手に対し正確な適用税率や消費税額等を伝えるための手段」であり、一定の事項が記載された請求書や納品書その他これらに類するものをいいます。

【インボイス発行事業者登録制度】

- インボイスを交付できるのは、インボイス発行事業者に限られます。
- インボイス発行事業者となるためには、登録申請手続きを行い、登録を受ける必要があります。

【登録申請のスケジュール】

インボイス制度が開始される令和5年10月1日から登録を受けるためには、原則として令和5年3月31日までに登録申請手続きを行う必要があります。登録申請後、審査に一定の時間を要しますので、早めの提出をお願いします。



詳しくは、国税庁ホームページ、資料（下記アドレス）をご覧ください。

- ・インボイス制度の概要（国税庁ホームページ）

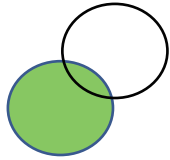
https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice_about.htm

- ・資料1：令和5年10月インボイス制度が始まります！（国税庁 令和4年8月）

<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/pdf/0022008-052.pdf>

- ・資料2：消費税の仕入税額控除の方式としてインボイス制度が開始（国税庁 令和4年7月改訂）

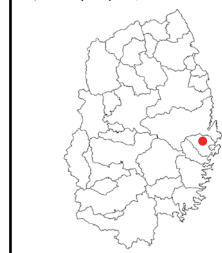
<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/pdf/300416.pdf>



土地改良区だより

第4回 水土里ネット山田 (山田町土地改良区)

県内位置図



【総会の様子】

山田町土地改良区の受益地は、山田町の北部に位置し、豊間根川と荒川川の流域にある土地を昭和初期に開墾し土地改良事業で整備した地域です。

山田町では、荒川土地改良区と豊間根土地改良区の2土地改良区が施設の管理を担っていましたが、運営基盤強化を図るため、平成18年6月に「山田町内土地改良区統合整備推進協議会」を設立、両土地改良区の統合整備を進め、翌年12月に合併が認可されて山田町唯一の土地改良区となりました。

平成23年3月に東日本大震災津波が発生した際、管内の水田の一部でも陥没やひび割れ等が発生しましたが、幸いにして作付に支障はありませんでした。しかし、施設の老朽化は進んでおり、このままでは生産性や作業効率の低下はもちろん、農家の営農意欲が低下し、地域営農が成り立たなくなると危機感を覚えました。そこで、ほ場整備の実施が必要と考え、宮古農林振興センターにご指導・ご協力をいただきながら関係機関と協議を進めた結果、事業採択となり、令和3年に事業完了を迎えることが出来ました。

ほ場整備を行った農地では、農地中間管理事業を積極的に活用して農地の集積、集約化を図っているほか、地域農業マスタープランの具現化について、当土地改良区が先導的に取り組んでおり、山田町と連携して担い手確保や耕作放棄地発生防止に係る支援活動を展開しています。

現在の土地改良区の姿があるのは、合併やほ場整備事業に携わって頂いた関係機関の方々や、震災復興の応援職員として県内外から来ていただいた方々のお陰です。この場を借りて皆様に心から御礼を申し上げるとともに、機会あるごとに「受けた恩と感謝を忘れず」に言い伝えてまいります。



【豊間根地区航空写真】



【荒川地区航空写真】

水土里ネット山田(山田町土地改良区)

【理事長】瀬川 智宏

【所在地】〒028-1302 岩手県下閉伊郡山田町豊間根第3地割 181 番地 12

【連絡先】TEL : 0193-86-2977 FAX : 0193-65-6433

【受益面積】113ha 【組合員】223名 【理事】7名 【監事】3名 【職員】2名

編集後記

今年最後の「岩手県の土地改良」をお届けします。

12月も終盤となり、ぐっと冷え込むようになりましたが、皆様お体にお気をつけてお過ごしください。

「土地改良区だより」にご協力いただいた山田町土地改良区様、大変ありがとうございました。

今回、男女共同参画に関する記事を多く載せましたが、2025年の成果目標達成に向けこれからも様々な取り組みをよろしく願っています。

次号は1月発行予定です。良い年末をお過ごしください。

(編集幹事)



発行所 **岩手県土地改良事業団体連合会**

〒020-0866 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL 019-631-3200

FAX 019-631-3260

<http://www.iwatochi.com>

編集発行人 千葉 匡